

水辺の生物



カヤネズミ (萱鼠)

げっ歯目・ネズミ科・カヤネズミ属

写真提供/全国カヤネズミ・ネットワーク

日 本で一番小さなネズミ。体長(鼻先から尾のつけ根まで)約6cm、尾の長さ約7cm、体重5~7g、大きさは親指ほどで、体重は500円玉くらいの愛らしいネズミである。

背中は黄色や赤みがかったオレンジ色で、腹部は真っ白。顔は丸いが、鼻は尖っている。尾で物をつかむ、唯一の旧世界げっ歯類である。

里山、河川敷の「カヤ原(オギ・ススキなど)」や農場などに生息し、草の種子や木の実のほか、昆虫、クモなどの小動物を食べる。繁殖期には21日間の妊娠期間の後に、2~6匹の子どもを出産するが、8匹の出産も確認されている。食料が不足すると自分の子どもを食べてしまうことがあるという。

カヤネズミは、低木や草の茂みの中に、細く裂いた草の葉や茎を編み、ボール状の巣をつくる。巣は直径が8~12 cmで、地上から50~130 cmくらいの高さにある。メスの繁殖用の巣は、通常の巣に比べるとずっとしっかりしている。

西ヨーロッパから西アジアに分布し、日本では本州、四国、九州などに生息している。

近代的農法により、ユーラシア大陸のカヤネズミは、壊滅的な打撃を受けた。除草剤や殺虫剤の散布や、収穫期には巨大なコンバインがすみかを奪うなど、絶滅の危機に瀕している。

日本でも以前はよく見かけることができたが、開発などにより生息場所である草地が減少し、現在では18都府県でレッドデータブック(絶滅のおそれのある野生生物の情報を記録した資料集)に記載されている。

この可愛いカヤネズミを中心に、河川敷や里山の生き物と生息地を守ろうと活動しているのが「全国カヤネズミ・ネットワーク」。百年後の未来の子どもたちに、美しい自然を残そうと、カヤネズミの生態調査、観察会などを実施、インターネットで全国から生息情報を集めている。

取材協力：畠 佐代子氏

参考文献：「日本動物大百科一哺乳類I」日高敏隆監修、平凡社 1996年

「世界動物大図鑑」ディヴィット・バーニー他、日本語版監修 日高敏隆
ネコ・パブリッシング 2004年

「絶滅危機動物図鑑—消えゆく野生動物たち」ジョージ・C・マクガヴァン著
日本語版監修 林良博 ランダムハウス講談社 2008年

「全国カヤネズミ・ネットワーク」ホームページ (<http://kayanet-japan.com>)

※2009年5月号掲載「タシギ」の記述に誤りがありました。正しくは、「南北アメリカ大陸」は「北アメリカ大陸」です。お詫びして訂正いたします。